

2012-13 年度カリキュラム報告

—アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターの中上級日本語集中教育—

大竹 弘子

1 はじめに

横浜にあるアメリカ・カナダ大学連合日本研究センターは、日本研究の専門家や日本関係の実務家などを目指す人々に、中上級レベルの日本語を集中的に指導する教育機関である。当センターでは、40 週間におよぶ年間コースと、7 週間の夏期コース、また、今年度から3 週間の漢文夏期集中コースを開始し、3 種類の日本語プログラムを実施している。2012-13 年度の年間コース修了生は41 名、それに続く2012 年6 月から8 月の夏期コース修了生は44 名、2012 年6 月から7 月の漢文コース修了生は3 名であった（この年報の別項を参照）。以下に2012-13 年度の、40 週間の年間コース実施内容を報告する。

2 年間コースの概観

2012 年9 月3 日から翌2012 年6 月7 日までの40 週間にわたって年間コースを実施した。本コースは4 つの学期からなり、9 月開始から10 月末の秋休みまでを第1 学期、11 月から12 月の冬休みまでを第2 学期、翌新年1 月から3 月の春休みまでを第3 学期、そして春休み明け以降コース終了までを第4 学期とし、1～2 学期をまとめて前期と呼び、3～4 学期を後期と呼んでいる（表参照）。

午前と午後の授業の違いを端的にまとめるなら、午前は日本語の構造や知識に関する言語形式面を重視し、午後は聴読解や発話など言語運用の技能を伸ばす、という力点の置き方に差異がある。午前は「文法復習」「待遇表現」「接続表現」「統合日本語」「上級日本語」を必修科目とし、後期には選択必修科目「選択A」「選択B」を「統合日本語Ⅱ」「上級日本語」と並行して実施した。午後は「総合運用」が1 学期から3 学期まで続き、4 学期の午後は「プロジェクトワーク／日本語N1 クラス／個別指導（うち1 つ選択）」を行った。各学期の教育内容を以下に記す。

2012-13年度 40週間の年間コース日程

週	10:00-11:50 午前クラス授業	13:20-15:00 午後クラス授業 水曜は午後のクラスなし		
1	オリエンテーション・試験・面談	オリエンテーション・面談など	↑ 1 学期 9/3-10/26 8 週間 ↓	
2	文法復習 Japanese Grammar Review	総合運用 I Applied Japanese Skills I		
3				
4				
5				
6				
7				
8	待遇表現 Formal Expressions			
9	秋休み 1 週間 10月27日(土)~11月4日(日)		↑ 2 学期 11/5-12/21 7 週間 ↓	
10	接続表現 Conjunctive Expressions	総合運用 II Applied Japanese Skills II		
11	統合日本語 I IJ: Integrated Japanese Advanced Course I			
12				
13				
14				
15				
16				
17-19	冬休み 3 週間 12月22日(土)~1月14日(月)		↑ 3 学期 1/15-3/8 8 週間 ↓	
20	統合 日本語 II IJ II	選択 A Elective Course A		選択 B
21				
22				
23				
24				
25				
26		総合運用 III Applied Japanese Skills III		
27			個人面談	
28-29	春休み 2 週間 3月9日(土)~3月24日(日)		↑ 4 学期 3/25-6/7 11週間 授業は実質 8 週間 ↓	
30	上級 日本語 Advanced Japanese	選 択 A		選 択 B
31				
32				
33				
34				
35				
36	上級 日本語	選択 A		B
37				
38				
39	試験 5/27-28 月火, 発表準備		試験 5/27-28 月火, 発表準備	
40	発表 6/4-5 火水, 面談 6/7 金			発表 6/4-5 火水, 面談 6/7 金

3 第1学期の教育内容

1学期から3学期を通し、午前の授業は月曜から金曜までの5日間50分授業を2コマ(途中10分間休憩)行い、昼食をはさみ午後は水曜を除く4日間100分間授業を1コマ行った。

3-1 文法復習

入学直後の1学期午前にはまず、中級学習者にとって理解が難しく誤りやすい文法事項を取り上げ、知識を整理し正確さを高めながら運用力を向上させた。当センター編集発行の『*An Introduction to Advanced Spoken Japanese*』(略称ASJ)あるいは当センターで作成した内部教材『*Japanese Grammar*』(略称JG)のどちらか一方を、各クラスの日本語習熟度に応じて使い分けた。また、敬語とその随伴行動の学習準備として「プレ待遇表現」(動画スキット全4回)を導入した。午前22日間44コマをこの指導にあてた。

3-2 待遇表現

文法復習に続く午前の授業では、円滑な人間関係を構築できるよう、敬語とその随伴行動、社会慣習、礼儀、挨拶などを含めた言語行動を取り上げた。主教材として当センター編集発行の『待遇表現』を用いた。この待遇表現の指導に午前9日間18コマをあてた。

3-3 総合運用 I

午後の授業「総合運用」は主として、読解、聴解、発話などの技能面に焦点をあて、文字通り総合的な日本語運用力の向上を目指した。第1学期は身近で日常的な話題を扱った「経験談」という単元から開始し、自然な話し方に慣れるとともに、既習の文法事項などを総合的に活用する機会を提供した。続いて「新聞入門」「ニュース入門」「新聞ニュース」「東日本大震災」という社会性をおびた単元に進み、日本事情や時事的話題に関する語彙・表現の習得と運用力向上を促した。午後19日間×100分をあてた。

4 第2学期の教育内容

4-1 接続表現

接続詞に特に注目し、文と文の接続、段落や文章の組み立て方(複段落の作成)について指導した。教材として当センター開発の内部教材「接続表現」を用いた。午前10日間20コマをこの指導にあてた。

4-2 統合日本語 I

一般的な中級段階の日本語から、より高度で専門的な日本語への橋渡しをするために、独自開発教材『統合日本語 *Integrated Japanese Advanced Course*』を用いた。各課は同一の話題をめぐる「文章編」と「会話編」からなり、「文章編」では読解練習とそこで扱われる文型・語彙・表現を学び、「会話編」では自然な話し言葉を状況に応じて使い分けられるよう指導した。2分冊の上巻1～3課を第2学期に、下巻4～5課を第3学期に扱った(5-1節「統合日本語Ⅱ」参照)。月曜から金曜の午前23日間46コマを統合日本語Ⅰの指導にあてた。このうち12/19水の午前2時間をミニ発表会にあて「統合日本語Ⅰ」で学んだ知識や技能を整理する機会とした。

4-3 総合運用Ⅱ

一般的な社会問題をめぐる生教材、つまり読物と関連ビデオ(例えば報道番組)などを読解・聴解し、話し合いを重ねることによって、類似した一般的な話題についても日本人と話し合える能力獲得を目指した。この総合運用Ⅱでは、話題シラバスのモジュール型教材群「文化の発信」「ものづくり」「外国人と国籍」「地球環境」「働く女性」「教育制度」「差別と人権」「現代の若者たち」の中から学生の興味や関心あるいは必要性に応じて教材を選び、各クラスの理解度に合わせて授業進度を調整した。水曜を除く月火木金の午後22日間×100分を総合運用Ⅱの学習指導にあてた。

5 第3学期の教育内容

冬休みが明けた新年の1月から第3学期が始まる。3学期から、各学生の専門・興味・関心・必要性に応じた選択授業が増える。必ず履修すべき授業時間数はコース前半と同じく、午前50分授業2コマ5日間、午後は水曜以外100分授業4日間で変わらない。午前は、火曜と水曜に統合日本語Ⅱ、月曜と木曜に選択A、金曜に選択Bを配し、午後4日間(水曜以外)は総合運用Ⅲを実施した。また水曜午後と木曜放課後に随意科目の選択Cを設けた。

5-1 統合日本語Ⅱ

3学期に全学生が共通の教材で学ぶ授業はこの「統合日本語Ⅱ」だけである。週2日、火曜と水曜の午前2コマずつ計4コマ「統合日本語Ⅱ」を実施した。3学期最終週の授業2日間(3/5火と3/6水)をミニ発表会にあて「統合日本語Ⅱ」で学んだ知識や技能を整理する機会とした。3学期の火曜と水曜の午前16日間32コマをあてた。

5-2 選択A

3～4学期の午前週2回（月曜と木曜）各学生は、自己の専門領域に関連するコースを1つ選び、将来の学術研究や専門実務に資する言語面の能力育成に取り組んだ。学生には3～4学期を通じて同じコースを継続履修するよう奨励した。例年、コース選択に迷う学生が多々いるので、本年度は「選択Aコースお試しクラス」と称して2学期の午後13:20-15:00の授業1日（11/20火曜）を利用して体験受講の機会を設けた。本年度の開設コースは「文化人類学」「政治経済」「美術史」「文学」「歴史」「法律」の6つで、月曜と木曜の午前に3学期14日間28コマ、4学期に15日間30コマをあてた。

5-2-1 文化人類学 文化人類学、社会学の研究・調査報告を読み、現代日本社会について議論した。3学期は「フィールドワークと現代テクノロジー」「グローバル化」「日本人論と若者」「ジェンダー」を主要なテーマに設定し、学生の専門に応じた読み物を教材とした。ミニフィールドワークも行った。4学期は各学生が自己のテーマにそった素材を提供し話し合いを進めた。

5-2-2 政治経済 3学期は日本の「政治・経済」に関する記事や文献が理解できるよう、政治学や経済学の一般向け入門書を教材とし、基本的な知識と語彙を充実させた。4学期は学生の専門に対応し、日米同盟、TPP、東日本大震災と地方自治体、マーケティング、知的財産、日本銀行の役割などの話題を取り上げた。国会議事堂、工場見学も行った。

5-2-3 美術史 明治時代に形成された「日本美術史」という概念をまずおさえた上で、美術史特有の専門用語・概念、分析理論の流れ、作品分析、イメージの読み解きなどを行った。また、各学生の研究テーマに関する論文を学生自身が選び、それをもとに話し合った。美術史のみならず、演劇学（浄瑠璃）、芸術学などにも議論が及んだ。

5-2-4 文学 明治から現代までの短編小説および関連する評論を取り上げ、理解・鑑賞したのち話し合いを行った。おおむね2～3回で1作品を読んだ。文学を専門としない履修者にも配慮し、文学作品の理解・鑑賞・議論という形態にとらわれることなく、幅広い授業活動を柔軟に盛り込んだ。

5-2-5 歴史 日本語で歴史研究を進めていくための基礎訓練を積み重ね、語彙・表現の拡充を図った。学生の興味・関心・必要性が共通する一次史料を素材とする読解練習も組み込んだ。4学期は各学生の個別テーマに関する論文の読解と話し合いなどを実施した。

5-2-6 法律 日本の法律全般、特に憲法、民法、刑法、会社法等について、その基本的内容を判例も用いながら指導し、条文・判例を自力で読解できる技能を育成した。また、弁護士事務所との交流会、日本大学法学部大学院のゼミ聴講等の活動を授業と結び付ける形で行った。

5-3 選択B

選択Bでは日本語力の増強あるいは周辺分野の指導のために「アカデミックスピーキン

グ I」「ビジネス日本語 I」「リスニング I」「リーディング」の 4 コースを開講した。金曜日の午前 8 日間 16 コマをあてた。

5-3-1 アカデミックスピーキング I 大学院での演習場面を想定し、発話力伸張の訓練を行った。具体的には、発表者、司会者、参加者の役割を順次担当しつつ、専門的な分野における議論をより深める力の向上を目指した。発表者は要旨と論点を事前に準備し当日資料を配付した。

5-3-2 ビジネス日本語 I 就職活動を経て新社会人として働く場で遭遇する状況を設定し、役割練習を積み重ね、録画の視聴を通して自己の言行を反省させた。さらに模擬就職面接を行い事例に即した解説を加えながら実践指導をした(5-5-3 節「ビジネス」参照)。

5-3-3 リスニング I 2分程度のニュースや情報番組の精聴練習を積み重ねた。正確に再生できるまで繰り返し聞き直し、クラス全体でスクリプトを共同再生した。

5-3-4 リーディング 精読の練習として「日本人論」などに関する評論文を素材に用いて論旨の展開を読み取る訓練を積んだ。

5-4 総合運用Ⅲ

3 学期の午後は「現代史」「大衆文化」「ビジネス・社会」のうち 1 コースを選択する。どれも、読物を理解したりビデオを視聴したり、さらにその話題について討論をするなどの諸活動が盛り込まれている。水曜を除く月火木金の午後 26 日間×100 分を総合Ⅲの学習指導にあてた。

5-4-1 現代史 ムービーフィルムが残されている 1900 年前後からの日本の歴史を、特に戦後を中心にビデオと読み物で概観した。「戦前の日本 1900-45」「敗戦と復興 1945-55」「高度成長 1955-70」「現代の日本 1970-95」などの話題を取り上げた。

5-4-2 大衆文化 広い意味での日本の“大衆文化”に関して日本人と話せるようになることを目標とした。「CM」「映画」「アニメ・漫画」「文化政策」「伝統文化・古典芸能」などの話題を取り上げた。

5-4-3 ビジネス・社会 バブル経済の前後における企業や政府、さらに社会や人々の暮らしの変化を、戦後史にも触れながら追っていった。「バブル前後」「創業者」「通産省と大蔵省」「平成不況」「雇用制度」「系列」「マネーゲーム」「大震災後」などの話題を取り上げた。

5-5 選択 C

3～4 学期の随意選択科目として「文語文法」「漢文」「ビジネス」の 3 コースを開講した。このうち「ビジネス」は外部から招いた専門家が指導に当たった。

5-5-1 文語文法 文語文法の用語や歴史的仮名遣いから導入し、動詞・形容詞・助動詞の指導に進み、コース半ばからは文語作品の読解も並行して行った。金曜 15 時 15 分～16 時 55 分に開講した。

5-5-2 漢文 日本人が書いた漢文や漢文体の素材を取り上げ、読み下しと解釈の練習を行った。まず漢文の基礎構文をおさえ、それを応用して短い文章を読んだ。水曜 13 時 20 分～15 時 00 分に開講した。

5-5-3 ビジネス 「日本の産業と金融」を主題に、新聞や雑誌の記事を素材として、ビジネス界の実情にも触れながら、日本経済の現在に至る経緯を紹介し今後の展望と課題について講義した。選択 B 「ビジネス日本語」と連携する形で、模擬就職面接を実施した。毎週木曜の 15 時 15 分～16 時 15 分に、神奈川経済同友会の湧井敏雄が指導に当たった(5-3-2 節を参照)。

6 第4学期の教育内容

プログラム最後の4学期の午前は、月曜と木曜に「選択 A」が3学期から継続するほかは、火・水の「上級日本語」と金曜の「選択 B」は4学期の独立したコースである。

また午後は1～3学期を通じて全学生が「総合運用」というクラス授業で学習を進めたが、4学期の午後は「日本語 N 1 クラス」「プロジェクトワーク」「個別指導」のうち1つの学習形態を選択し学習を進めた。

6-1 上級日本語

4学期の火曜と水曜の2日間は、日本語のおもに形式面の補強・拡充・総仕上げを目指した。標準的なクラスでは「対談・インタビュー」「評論」「論説」などの読み物素材を扱いながら、内容に関連した発話活動などを通じて、既習事項を総ざらいし日本語の知識をより確実なものにするとともに、上級日本語話者が知っておくべき事項の欠落箇所を補うなどした。なお各クラスとも学生の到達度、興味、要望に応じて各種の補助教材を付け足しながら活発な授業運営を目指した。16日間32コマをあてた。

6-2 選択 B

4学期の金曜日に「アカデミックスピーキングⅡ」「ビジネス日本語Ⅱ」「ライティング」「現代小説」「日本文化論」の5コースを開講した。なお3学期と4学期の選択 B はそれぞれ独立したものなので、例えば、話すことが苦手な学生は3学期に「アカデミックスピーキングⅠ」を履修し4学期にも「アカデミックスピーキングⅡ」を履修して発話力を集中的に強化することもできるし、あるいは3学期に「リスニングⅠ」を4学期に「ライティング」を履修して総合力の増進を目指すこともできる。8日間16コマをあてた。

6-2-1 アカデミックスピーキングⅡ アカデミックな場面における会話力伸張の訓練を行った。具体的には、担当者が問題提起として要点をまとめて提示し、参加者は事前に配付

された資料の内容を踏まえた上でその場で議論を組み立て、臨機応変に話題に対応しながら話し合いを進める練習を行った。翌週は前回の討論を踏まえつつ、全員での討論やディベートなどを行い、語彙や慣用表現の定着を促した。

6-2-2 ビジネス日本語Ⅱ 日本での就職を希望する学生を対象とし、市販の教科書を用いて、ビジネス場面における慣用表現を学習した。また、各自興味がある企業を一社選び、①その企業の紹介、②SWOT分析（経営戦略を検討するための手法）、③問題点の指摘とその改善方法の提案、というテーマで発表、全体で議論をし、プレゼンテーションとディスカッションの技術習得を目指した。

6-2-3 ライティング 随筆から小論文まで、目的に合った幅広い文章表現力の習得を目的とした。毎週、宿題として各種の文章を書き、授業ではそれを全員で検討・批判しあい、日本語らしい文章の書き方と推敲の技術について考察した。

6-2-4 現代小説 現代作家による短編小説を毎週、あるいは2週間で1作品ずつ取り上げた。授業では予習を踏まえて学生間の議論を促し、作品の「読み」を相互に深めあった。教材として、村上春樹、宮部みゆき、村上龍、川上弘美、綿谷りさ、筒井康隆、江戸川乱歩などの短編を扱った。

6-2-5 日本文化論 青木保著『日本文化論の変容』を素材とした。各学生が担当箇所を分担し、担当者は事前にレジメを作成し、発表と話し合いを行った。本文で著者が引用した文献を追加資料として配付したり、本文内容の理解不十分な点を確認した。

6-3 4学期午後

4学期の午後は「日本語N1クラス授業」「プロジェクトワーク」「個別指導」のうち1つの学習形態を選択して学習を進めた。

6-3-1 日本語N1クラス 日本語能力試験N1（旧1級）レベルの高度な上級文型の習得を目指して、100分のクラス授業を週2回おこなった。過去に出題された実際の項目を検討する受験準備ばかりでなく、各学生が書いてきた例文を互いに自然な日本語に仕上げる活動などを通し、表現の幅を広げた。履修15名を2組に分け15日間30コマ指導した。

6-3-2 プロジェクトワーク このプロジェクトワークでは、各学生が自己の専門や興味ある分野の主題を選び、その内容に比較的詳しい教員から毎週50分間個別の助言を受けながら、実地の調査研究や文献の読解などを行った。本年度は全て個人でプロジェクトを進めた。

6-3-3 個別指導 クラス授業では対応できない、日本語に関する特定の需要を満たすためのコースである。学生が主体的に目標を設定し学習計画を立て、教員から個別の助言を受けながら各自が必要とする課題に取り組んだ。

7 通年で実施した学習指導と行事など

40週間にわたるプログラム期間中、教室における通常の授業に加えて、日本語の習得を促す数多くの機会を織り込んだ。以下にその代表的な活動を紹介する。

7-1 評価と個人面談

本プログラムでの学習成果を測定するため、入学直後と卒業間際に実力試験を実施した。内容は、読解と漢字の筆記試験、テープによる聴き取り試験、面接形式での発話テストを、入学・卒業時に共通して実施し、入学時にのみ文法と作文のテストを加えた。

試験結果をもとに1学期のクラス（午前午後7組ずつ）を編成した。午前のクラス担任教師は、コース開始に先立ち、午前クラスで受け持つ各学生と個別に面談し、試験の結果を踏まえ40週にわたる学習の指針などを助言した。1学期末にも午前のクラス担任と各学生とが個別に面談し、その間の学習ぶりを振り返り、新たな課題を設定するなどした。

このような教師と学生の個人面談の機会をその後も各学期末に設けた。2学期末と3学期末の面談はそれぞれ午前のクラス担任が行い、4学期末つまり卒業時は1学期と同じ教師が同じ学生と面談し年間を総括した。

クラスは学期ごとに午前・午後とも（選択Aを除き）編成替えをし、新鮮な気持ちで学習に臨める雰囲気維持を図った。

7-2 漢字プログラム

常用漢字習得のための自律学習プログラムである。教材として当センター編集発行の市販教材『*Kanji in Context*』（ジャパントイムズ社刊）とその補助教材を用いた。漢字を単独で取り上げるのではなく、熟語、例文と共に学習する。学生は、ワークブックおよびコンピュータで独習し、翌朝クイズを受け、教材助手が採点するという形で、それぞれの進捗で学習が継続できる。

2010年の常用漢字改訂（5字削除し196字追加）を受け、当センターの漢字プログラムも従来の第1～6水準に加え第7水準を新設し、改訂版の常用漢字2136字すべてを卒業までに習得できる標準日程を組み、各教室には「今週の漢字」を掲示した。

7-3 講演会、校外学習、各種の企画や催し

全学生を対象とする講演会を4回（10/19, 11/26, 12/14, 5/14）そして全学生が参加する校外学習を1回（10/5）開催した。また、選択必修コース授業の一環としてコースで独自に実地見学におもむくなど様々な学習機会を設けた。これら各種の催しを実施順に本稿末の資料に一覧としてまとめた。この表には、本センターが主催した行事をはじめ、相手方の団体から招待を受けて本センターが仲介し学生に参加を奨励した催事、あるいは学生全体

の自主企画など、大小とりまぜて記載した。

以上の催し以外に、希望学生を対象とした有料の課外活動「書道」と「古筆」のコースを書家の小林紘子が担当した。「書道」は年間を通じて火曜 15 時 15 分～16 時 45 分に実施し、「古筆」は後期のみ書道終了後に実施した。「書道」のコースは、書の心得や筆の運び方などの基本から伝授し、最終的には自作の落款付き作品を仕上げ掛軸に表装したものを卒業発表会場に展示した。「古筆」は手書きの古典文献を理解するのに欠かせない、くずし字の読解練習を段階的に進めた。

8 卒業発表

卒業発表会は 10 か月間にわたる学習を締めくくる催しである。全学生は、来賓と全教職員学生の前で、質疑応答を含め 1 人 15 分の持ち時間内で、やや改まった形式の発表をした。今年度は全員個人発表であった。

4 学期の午後の授業がプロジェクトワークあるいは個別指導の学生は、その時間内に卒業発表の準備を進めた。日本語 N 1 クラスの学生はミニ発表会（2・3 学期「統合日本語」）などで話した内容を洗練させるなどして卒業発表に仕上げた。N 1 クラスの各学生には 1 人 2 時間分、原稿のチェックと発表の予行演習を個別指導する教員を割り当てた。

当センターのウェブサイト「卒業発表会内容紹介」ページでは過去の年度も含め、題目と要旨を公開しているので参照されたい。http://www.iucjapan.org/html/presentations_j.html

9 おわりに

本センターは今年創立 50 周年を迎えた。この節目の年に当たり、様々な教材の見直し、また、新たな教材作成の作業を行っている。その一つが昨年度開始した震災関連教材群の作成、「プロジェクト 3.11」である。「東日本大震災」を①「事実」②「報道」③「様々な分野での反応」という三つの観点から整理し、教材化したもので、最終的には Web 上での公開を目指している。既に、本センターカリキュラムの中では、総合運用、選択 A コースなどで、この教材群からコースにふさわしい内容のものを授業に組み込んでいる。また、常用漢字改訂を機に、当センター編集発行の市販教材『*Kanji in Context*』（ジャパントイムズ社刊）とその補助教材ワークブックの全面的改訂を進めており、こちらは本年 11 月の出版を予定している。

さらに、50 周年記念行事として、本年 12 月 7 日には、『選ばれる日本語 — 「外国人プロフェッショナル」のまなざし —』と題して記念シンポジウムを開催する。本センターで日本語教育を受けた日本研究の専門家、日本関係の実務家を招き、プロフェッショナルとして活動するためにはどのような日本語力が必要なのか、その養成にはどのような教育

が必要なのかを問い直すという観点から議論するものである。

50周年を迎え、本センターが高度な日本語力を養成する教育機関であることを再確認するとともに、これまでの蓄積を生かしつつ、教育内容の充実を図っていきたい。

(おおたけ ひろこ/本センター言語課程主任)

【資料】2012-13年度 通常授業以外の各種イベント

2012年

- 9月 5日 (水) SKIP とコンピュータ学習の説明 10:00-11:00 コンピュータ室
- 9月10日 (月) 防災説明会 13:30-15:00 各教室⇒地階屋外へ避難⇒コンピュータ室
- 9月11日 (火) 発音学習説明 13:30-14:00 コンピュータ室漢字学習説明 14:10-15:00
- 9月14日 (金) 入学歓迎親睦会 12:00-13:30 会議室
- 9月28日 (金) アメリカ研究者の集い 10:00-17:00 国際文化会館、希望者を引率
- 10月 5日 (金) 校外学習「鎌倉の日」鶴岡八幡宮参拝
- 10月 7日 (日) 鶴岡八幡宮「流鏑馬神事」に希望者を引率 13:00-16:00
- 10月 7日 (日) 国立能楽堂金春流能狂言「鉢木、空腕、井筒」12:30 希望者招待
- 10月 9日 (火) 課外クラブ「書道」開始 15:15-16:45 (説明会 9/25 火曜 15:15)
- 10月19日 (金) 講演会「最初の日本人女性留学生 大山捨松」
久野明子 日米協会理事 13:30-15:00
- 10月20日 (土) 神奈川善意通訳者の会 KSGG 鎌倉ツアー、希望者自主参加
- 10月26日 (金) 11/9,11/16,11/30 横浜中ロータリークラブ講演会希望者招待
ホテルニューグランド 12:30-13:30
- 10月27日 (土) 国際文化会館 田中泯舞踊公演 希望者招待 15:00
- 10月28日 (日) 横浜にぎわい座寄席 13:30 本牧ロータリー、野毛町づくり会
希望者招待
- 11月 2日 (金) 横浜市立大学「浜大祭」学内ツアー希望者 12:00 センターから引率
- 11月11日 (日) 国立能楽堂金春流能狂言「小督、萩大名、吉野静」12:30 希望者招待
- 11月24日 (土) 横浜能楽堂「かもんやま能」希望者招待 15:00
- 11月26日 (月) 講演会「文化交流とは：150年の英米日本研究を振り返って」
IUC 1962 卒^{ケイト ナカイ}Kate Nakai 上智大学名誉教授 13:30-15:00
- 11月29日 (木) 米国国務省日本語研修所所長^{ジョン マハー}John Maher 外交官の仕事内容紹介
16:00 希望者
- 12月 5日 (水) 文楽鑑賞教室「靱猿」「恋女房染分手綱」国立劇場 14:00
希望者引率
- 12月 7日 (金) YOKE 地球市民講座 IUC 紹介&交流会 17:00-19:00 会議室、有志参加

- 1 2月 6日 (木) 横浜国際協力センター合同防災訓練 15:00-16:00 有志参加
- 1 2月 13日 (木) IUC 1996 卒^{カール バイザー} Carl Pizer、MPS 代表取締役 就職活動予定者に助言
16:00
- 1 2月 14日 (金) 講演会「歴史に学ぶ女と男の関係—与謝野晶子、平塚らいてう、山川
菊江とそのパートナーたち」金子幸子 元名古屋短期大学教授
13:30-15:00
- 1 2月 16日 (日) 鶴岡八幡宮「御神楽」希望者 17:30

2013年

- 1月 15日 (火) 課外授業「古筆」説明会、以降毎週火曜日 希望者
- 2月 8日 (金) モントレー大学院説明会、同大松尾直子先生 希望者 12:00
- 2月 9日 (土) 本牧ロータリークラブ 日本語スピーチフェスティバルとパーティ
希望者招待
- 2月 26日 (火) 座談会「中小企業」米山伸郎 日販グローバル株式会社代表取締役
中小企業診断士 15:30-16:30 希望者
- 3月 8日 (金) IUC 2012 卒^{ジョセフ トルスマ} Joseph Tolsma Project Coordinator Intralink
希望者と就職に関する情報交換と会社説明 13:30
- 4月 5日 (金) IUC 2007 卒^{ジョセフ ブラントリー} Joseph Brantley 海外部部長星野由美子氏
イトーヨーカドー採用説明会 12:15-13:15 希望者
- 5月 5日 (日) 鶴岡八幡宮「菖蒲祭・舞楽奉納」13:00～ 希望者
- 5月 9日 (木) 神社本中主催「国宝 大神社展」セミナー 希望者招待 12:30～
- 5月 10日 (金) 懇談会 IUC 1999 卒^{ジェニファー マーテンス} Jennifer Mertens シニアコンサルタント(株)
Telent2 16:00 希望者
- 5月第2～4週 日本大学社会科学系授業聴講、第3-6時限、希望者、5/30パーティー
- 5月 14日 (火) 講演会「来訪神行事の行方 - 伝統と観光の一考察 -」
^{マイケル フォスター} IUC1996 卒 Micheal Foster インディアナ大学准教授 18:00～20:00
- 5月 17日 (金) ～19日 (日) 下田市主催「黒船祭り」希望者5名無料招待
- 6月 4日 (火) ～5日 (水) 卒業発表会、神奈川県立青少年センター多目的プラザ
- 6月 7日 (金) 卒業式 卒業祝賀会 18:00-20:30
- 6月 8日 (土) 鶴岡八幡宮「蛍放生祭」希望者